# 最新医療の現場

## 大動脈瘤に対する血管内治療『ステントグラフト治療』

徳島大学病院心臓血管外科長 北川哲也 きたがわ てつや

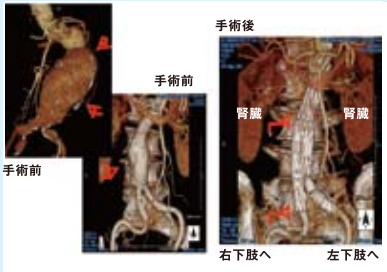
■問い合わせ 心臓血管外科外来 Tel. 088-633-7150 ・心臓血管外科医局 Tel. 088-633-7152
■《大動脈疾患専門外来》心臓血管外科外来にて　日時／第1、第3金曜日 14:00～　Fax予約 0120-335-979

### ■最新の［ステントグラフト］とその治療法とは

ステントグラフトとは、人工血管にステントと呼ばれるバネ状の金属を取り付けた新型の人工血管です（写真1）。これを圧縮して収納した細いカテーテルを、患者さんの足の付け根を3cmほど切開して動脈内に挿入します。大動脈瘤のある部位まで運んだところで、収納してあったステントグラフトを放出します。そこでステントグラフトは、金属バネの力と患者さん自身の血圧によって血管内へ張り付き、自然に固定されます（写真1）。この治療法では、大動脈瘤は切除するわけではないので残っていますが、ステントグラフトにより蓋をされた状態の瘤は、血圧が低くなり血栓化されて、次第に小さくなる傾向が見られます。またもし瘤が縮小しなくても、拡大を防止できれば破裂の危険性が小さくなります。従来の大動脈瘤の手術は、胸や腹部を大きく切開して人工血管に置換していたため、傷も患者さんへの負担も大きかったのですが、このステントグラフト治療での傷は非常に小さく手術時間も短く、術後の痛みも少なく、翌日には歩行や食事も可能で、術後1週間以内に退院でき、社会復帰が非常に早いという利点があります。高齢者や心臓、肺、腎臓等の重要臓器機能の低下している方、がん治療を受けている方などにも比較的容易に受けていただける治療法です。

### ■当治療法の現状

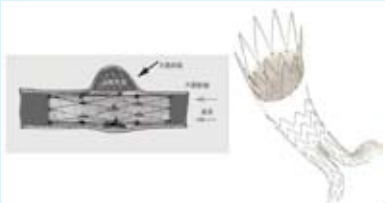
当初、ステントグラフトは個々に手作りしていたのですが、2006年7月には腹部大動脈瘤用の、2008年7月には胸部大動脈瘤用の企業製ステントグラフトが薬事承認されたことで、欧米より約10年遅れましたが、現在、日本で急速に普及してきている治療法です。しかし、まだ新しい治療法のため、術後10年、20年経過した時点で問題がないのかどうかというデータがありません。また、現在のステントグラフト機能では、患者さんの動脈瘤の形態と場所によっては適応できない患者さんがいるのも現状です。しかし、日進月歩ステントグラフトの改良がなされています。2009年に徳島大学病院で手術した動脈瘤の患者さんでは、胸部では7割、腹部では半数が本治療法を行いました（写真2、3）。



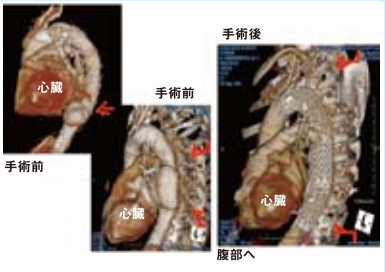

【2】腹部大動脈瘤に対するステンドグラフト治療

### ■治療を受けるには

ステントグラフト治療は、規定のトレーニングを積んだ認定施設でのみ可能です。四国ではまだ限られた施設でしか行われておらず、県内では徳島大学病院を中心にして行われています。本院では、大動脈疾患専門外来を設けています。詳しくはお問い合わせください。



【1】腹部大動脈瘤用ステントグラフト例（右）、
血管内におけるステントグラフト挿入状態の様子（左）。




【3】胸部大動脈瘤に対するステンドグラフト治療